

(2016年度)

国語

次の文章は、岩城けい『Masato』（集英社）の一節である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

好きでもないことをやらされるのって、すごくいやだ。補習校。漢字。それから、大勢の人の前で英語でしゃべること。去年の劇は、木の役で何も言わなくてよかったけど、顔を茶色にぬられて立たされて、①お仕置きされているみたいで死ぬほどこいやだった。だからオキーフ先生に、今年の劇に出るって言われたときは、もうどうしようかと思った。

でも、②オキーフ先生が言うんなら、出てみてもいいって思った。

エイダンとつるむのをやめてから、しばらく③タってみると、ぼくはまたクラスで取り残されたような感じがしはじめた。六年のこのクラスは、圧倒的に女子が多い上に、少数派の男子は下の学年からずっと仲のいいグループだったやつばかりだ。六年にもなると、昨日と今日で遊ぶ友だちが違っていることはあり④エない。リセス(※)はもちろん、グループワークでもペアワークでも仲のいい者⑤ドウシがいつもくっついてる。ちよつと浮いてるかなって思っ、て、クラスの男子の輪の中に入ろうとしたけど、彼らの話題についていけない。家ではお父さんもお母さんもNHKばかり見て、こっちのテレビってほとんど見せてもらえないから、ドラマの話とか歌の話とかアイドルの話も全然ぜんぜんわかんないし、ゲームも東京ではプレイステーション持ってたけど、こっちではお父さんが「せっかくこんなに自然がいっぱいあるんだから、外で遊べ」って言って、買ってもらってないから、Xboxとかのゲームの話にもついていけない。で、リセスやランチタイムには、⑥アイカわらず教室の外でケルヴィンとかノアとかジェイクと遊ぶ。ケルヴィンの家もテレビもインターネットも中国語ばかりだったってし、ノアはテレビは見るけどゲームはもってないし、ジェイクはサッカーのこしか頭になくて、ほかの男子たちがサッカーよりもっと人気のあるフッティとかクリケットをやっているにも気にしないし、テレビとかゲームはもつとどうでもいいみたいだ。

その日は、今年のスクールコンサートでやる劇のメインの⑦ハイヤクを全校生徒のオーディションで決めたところだった。今回は、⑧ドウワの『人魚姫』のパロディーみたいなやつ。ぼくは去年のこともあるし、⑨A劇なんか全然⑩キョウミがなかったの、オーディションを受けなかった。今年もどうせ去年とおんなじで、だれにでもできる、どうでもいい役だと思っていた。主役は四年生のパイパーっていう女の子に決まったって発表があった。王子さまを救い出すために海賊たちとたたかうマーメイドのお姫さま。ランチタイム、ケルヴィンが立候補もしてないのに、またピアノ伴奏に選ばれたものすごいやつだった。ケルヴィンはラブラドル犬が欲しいので、この一年コンテストに出まくっているけど、いつも二位とか三位で、⑪B優勝できない。はやく優勝して、犬を飼ってもらって、ピアノをやめるっていつも言ってる。

③「マット、海賊の役、やらないか？」

授業が終わったあとオキーフ先生に声をかけられた。オキーフ先生は机をはさんで向こうからぼくに話しかけている。例によって机の上はすまなく物が置かれていて、書類とか文房具とかメガネとかティッシュとか、かじりかけのリンゴとか、それから、そのほかのゴミを順番にじつとみながら、ぼく、英語得意じゃないし、セリフ言い間違えてみんなに笑われるのはいやだ、って答える。大丈夫だよ、この役、セリフがない。セリフのかわりに、ラッパ吹くんだよ。役名もちゃんとあるぞ。メインキャストなんだから。海賊っていつでも、もともとは岩場にしがみついていた貝で、魔女に魔法をかけてもらって人間にしてもらったんだけど、貝だったころとおなじように声はなくて、話することはできないんだ。「これ台本」って言って、ひもでとじた紙の束をぼくに渡そうとして机の下に落とす。かがんでそれを⑫ヒロイ上げようとして、机に頭をぶつける。その振動で、机の上であやういバランスをとっていた書類

のタワーがぜんぶ崩れ落ちた。④先生は床一面に散らばった書類にはぜんぜんお構いなしで、机の下にはいつくばってさつき落とした紙の束をひろい上げる。ゴミとほりりが先生にくつついて出てくる。くさってカビの生えたサンドイッチの⑦ツツみを同時に見つけてゴミ箱に入れる。冬なのに、鼻の頭に汗をかいてる。ぼくは先生の手から台本を受け取った。先生が大きな前歯をぞろりと見せて笑った。

メインの役に選ばれた生徒たちは、毎日ランチタイムにホールで練習がある。ほかの役と違って、⑤ぼくの「ピービー」っていうふざけた名前のついた役は、セリフがないのでちよつとつまらない。こんなだったら、英語を笑われてもいいから、なにかセリフがある役がよかったかもしれない。ケルヴィンはずーっとキーボードの前で、同じ曲を繰り返し弾いている。そこ、もう一回、ってオキーフ先生がステージに向かって言うたび、ケルヴィンが場面にあわせて同じ曲を弾く。つまらない？ って彼にきいたら、ピアノなんてこんなもんだよ、毎日毎日、同じことの繰り返し、ご飯食べるのとか、着替えるのとか、歯みがきするのとかといっしょだよ、っていつものようになんでもない顔をしてた。あいかわらず十本の指が鍵盤の上を正確にはい回っている。すごく簡単そうに見えるけど、一日三時間練習してるってきいた。ぼくがいやいや補習校で六年生で習う漢字百八十一字をやらされているのと、ちよつと違う。もしぼくが一日に三時間も百ます計算や漢字の書き取りをやらされたら、ぜったいに家出してやる。ケルヴィンは、ラブラドル犬のためだけに、そんな我慢ができるんだろうか、って⑥フシギだった。

出番がくると、ぼくはステージの真ん中の木のわくを重ねて作った一段高いところでラッパを吹く。一番最初の日、そのまま突っ立って吹いたら、オキーフ先生に、マット、ここはどういう場面？ マーメイドが出てきて、ピービーはすごく驚いてるんだろう、だからラッパ吹きながら、そういう顔とそういう手と足をしてごらん。ほかの海賊仲間にはパーティーで浮かれ騒いでいて、仲間を助けたくって死にもぐるいでラッパを吹いているピービーを見もしない。このとき、ピービーはどんな気持ち？ オキーフ先生にそうきかれた。みんなに無視されて死にたくなるくらいじゃないと思う、ってぼくは答える。じゃ、そのように、って先生。ぼくは、ラッパを吹きながら、手足をバタバタさせる。オキーフ先生が、マット、その調子。もつと必死な感じで。だって、死にたくなるくらい、なんだろう？ ピービーにはセリフがないから、言葉で言えないことを、体で表してごらん。きみが考えて自由にやっていいから。

無視されるのはつらい。あれは、すごくよくわかる。ちゃんとここにいるのに、いないふりされて、忘れられる。この学校に転校してきたころ、英語が話せないことよりもそっちのほうがずっとつらかった。たたかれたり、ひどいこと言われるほうがずっとマシだ。さっきは、無視されるのはどんな気持ちかってオキーフ先生にきかれて、死にたくなるくらいつらい、って答えたけど、あのみじめな気持ちときたら、言葉でなんかとても言い表せない。

言葉で言えないことを、体で表す。オキーフ先生はそう言った。考えて自由に。先生はそうも言った。自由って、ぼくの好きにしていってこと？ どうしよかなあ、ってあれこれ考えただけで、楽しくなってしまう。わくわくしてきた。でも、うまくいけばいいけど、失敗したら、ぜんぶ自分のせいになる。みんなに笑われるかもしれない、きらわれるかもしれないし、また無視されるかもしれない。しかも、ぼくのせいで、劇が台無しになるかもしれないって考えると、やっぱ、あれもこれもやめておこうって思ってしまう。自由って、怖い。さっきの、よくわかんないなあ、ってぼやいていたら、一緒にならんでホールを出るときケルヴィンが、ぼそつとつぶやいた。ぼくのピアノの先生も⑥似たことを言う、まずは楽譜をきちんと読め、それから楽譜に書いてないところを考えて弾け、きみはピアノリストで、ピアノ・ロボットじゃないだろうって。

よくわからないことって気になり始めると、頭のなかがざわざわしてきて、午後の授業でオーストラリアの歴史をやっている、アボリジニのゲストスピーカーがディジュリドゥを吹いている、放課後の校庭でジェイクとサッカーをやっている、⑦ピービーのことばかり考えてしまう。その日は家に帰って、洗面所の鏡の前でチロを相手に、ラッパの代わりにリコーダーを吹きながら、練習をする。いま、ピービーが見ているのは、マーメイドのお姫さま。それにしても、あのパイパーっていう女の子はなかなかかわいい。でっかいビー玉みたいな青い目で、レモン色の髪の毛がむきたてのゆでたまごみたいな白い顔のまわりにまとわりついてる。手と足がすらりと長い。ちよつとニヤニヤしてしまった。いそいで眉間（みけん）にしわをよせて口をひきしめるけど、なんか違う。ピービーは、つかまえたマーメイドの結婚相手の王子さまを早く殺してしまわなきゃならない。その約束と引き替えに、魔女に人間になる

魔法をかけてもらった。王子さまの血を飲めば、魔女は不死身になれるからだ。失敗すると、ピービーは海の泡になる。マーメイドはお姉さんたちと力をあわせて、王子さまを助けるために海から刀とか毒矢とかをつかって船を襲う。ピービーは気の毒な王子さまを殺すことも、酔っ払っている仲間を見殺しにすることもできない。ピービーにはセリフがないから、体を心に従わせなきゃいけないのかもしれない。それで、ぼくは背筋をピンと伸ばして、頭の中でマストにのぼって、ラッパを吹く。マーメイドがピービーめがけて短剣を投げる。台本には、⑧「ピービー 最後のラッパ。マストから海に落ちる」ってあるけど、大声も出せないし、ただ落ちるだけでいいんだろうか？ ピービーはたぶん死んで海の泡になることよりも、無視されたり、忘れられたりすることのほうがいやなんだ。それで、ぼくはピービーの悲鳴がわりにリコーダーを思いっきり吹いた。鼓膜（こまく）が破けそうになった。チロがやっと顔をあげた。ぼくがこんなバカみたいなマネしてるのに、チロときたら、すぐに元通り体を丸めて、バスマットに寝そべったまま。

まあくん、宿題すんだの？ ってお母さんが台所から呼ぶ声がした。何回言ったらわかるんだろう、宿題は毎日じやなくって、毎週金曜日にまとめて提出なんだってば。学校のハンドアウトにもダイアリーにもサインしてるくせに、お母さん、連絡事項ちゃんと読めてるの？ まあくん、宿題は？ 補習校のもやりなさいよ！ ってまたうるさい。わかったよ、ってぼくはなるべくふつうに答えようとしたけど、わかってるってば！ もう、いちいちうるさいんだよ！ ってイライラしてしまう。

⑨気がつくと、ランチタイムのホールでの稽古が一日で一番の楽しみになっている。教室にはぼくの居場所がないって感じがしていたけれど、劇の稽古にはちゃんとぼくの出番がある。英語のクラスやリーディング・リカバリーのクラスが長引いて遅刻することがある。そのときには、もうぼくの出番は済んでいたりする。でも、ぼく抜きでも、だれも何も言わない。いちど、ケルヴィンが学校を休んでその日の稽古は音楽抜きだった。なんであいつ、今日は休んでるんだよ、ってみんな不満そうだった。やっぱり音楽がなきゃ、調子でないなってオキーフ先生も言った。ピアノが弾けるケルヴィンが、自分のいないところでみんなに不服や文句を言われているケルヴィンが、ぼくはただただうらやましかった。

注 リセスⅡ休み時間

問1 — ⑦⑧について、カタカナを漢字に直しなさい。

問2 — ①「お仕置きされているみたいで死ぬほどこいだった」について、この時の状況を表した言い回しとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 穴があつたら入りたい イ 郷に入っては郷に従え ウ 飛んで火に入る夏の虫
エ 出る杭はうたれる オ 身から出たさび

問3 【A】【B】に入る語として最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア いちいち イ うかうか ウ くよくよ エ さらさら オ ししば
カ そろそろ キ とうとう ク なかなか ケ ほどほど コ もともと

問4 — ④「先生は床一面に散らばった書類にはぜんぜんお構いなしで」について、このことからわかるオキーフ先生の人柄としてふさわしくないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 周囲を気にせずに一つのことに集中できる先生
イ 身の回りのものを整理整頓するのが苦手な先生
ウ 面倒なことは自分でやらずに他人に任せる先生
エ 自分のことは後回しで生徒を一番に考える先生
オ 堅苦しくなくちよつとおちよこちよいな先生

問5 — ⑤「ぼくの『ピービー』っていうふざけた名前のついた役は、セリフがないのでちよつとつまらない」から — ⑦「ピービーのことばかり考えてしまう」までの間に、「ぼく」の「ピービー」に対する気持ちはどのように変化したか、わかりやすく説明しなさい。

問6 — ⑥「似たこと」について、ピアノの先生がケルヴィンに言ったことは、オキーフ先生のどのような言葉と似ているのか、三十字以内で書きなさい。

問7 — ⑧『『ピービー』最後のラップ。マストから海に落ちる』について、この台本の言葉を「ぼく」はどのようにに演じようとしているか、説明しなさい。

問8 — ⑨「気がつく、ランチタイムのホールでの稽古が一日で一番の楽しみになっている」について、このような気持ちになった理由の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 稽古では苦手な英語を使う必要がないから
イ 稽古では自分が常にいなければならないから
ウ 稽古で頑張れば母親を見返すことができるから
エ 稽古に参加していれば無視されることがないから
オ 稽古で演技をするとオキーフ先生にほめられるから

問9 「ピービー」とはどのような役か、八十字程度でまとめなさい。

問10 — ③『『マスト、海賊の役、やらないか?』』について、オキーフ先生はなぜこのように言ったのか、本文全体をふまえて説明しなさい。

問11 — ②「オキーフ先生が言うんなら、出てみてもいいって思った」について、同じような気持ちになった時のあなたの経験を教えてください。

受験番号

氏名

[illegible]

(2016年度)

国語 解答用紙 その2

11

受験番号
氏名